

| | |
|--|--|
| かいぎめいしょう 会議名称 | へいせい ねんど だい かいすぎなみくちいきじりつしえんきょうぎかい 平成27年度 第3回杉並区地域自立支援協議会 |
| にち じ 日 時 | へいせい ねん がつ にち か 平成28年1月13日 (火) 13:30～16:00 |
| ば しょ 場 所 | ぶんちようしゃ かい かいぎしつ 分庁舎4階 会議室 |
| <p>しゅつせきいじん ＜出席委員＞</p> <p>たかやまゆ み こい いん かいちよう かみさくあやこい いん ふくかいちよう おがさわら い いん かねこ い いん きくちえいじ 高山由美子委員 (会長)、神作彩子委員 (副会長)、小笠原みのり委員、金子めぐみ委員、菊地英治 い いん かしわぎしんじい いん たけしまみ ほい いん ながのたつやい いん まえさきけんいちい いん おおわだこうへい いん たなかなおきい いん 委員、柏木伸二委員、竹嶋美歩委員、長野達也委員、前迫健一委員、大和田耕平委員、田中直樹委員、 いがしらえみ い いん こうだきよし い いん すずきまさみちい いん かとうあやえい いん はるやまようこい いん しもだかずのりい いん しゅりみ か さ 井頭恵美委員、甲田潔委員、鈴木正道委員、加藤恵愛委員、春山陽子委員、下田一紀委員、修理美加沙 い いん ふじたようじい いん たなかすみこい いん ながたなおこい いん 委員、藤田洋二委員、田中澄子委員、永田直子委員</p> <p>かんじ ＜幹事＞</p> <p>ほけんふくしほしやうがいしやしきくか で ほゆうじ しょうがいしやせいかつしえんか ちよう りゅうまゆみ 保健福祉部障害者施策課：出保裕次、障害者生活支援課長：笠真由美 すぎなみふくしむしよたかいどじむしよたんどうか ちよう もろずみじんこ 杉並福祉事務所高井戸事務所担当課長：諸角純子</p> <p>じむきょく ＜事務局＞</p> <p>しょうがいしやしきくか いけだけいこ めぐるきみこ しらいしえみ きろく 障害者施策課：池田恵子、目黒紀美子、白石絵美 (記録) しょうがいしやせいかつしえんか はせがわひろこ 障害者生活支援課：長谷川比呂子</p> | |
| <p>しだい 【次第】</p> <p>1 開会</p> <p>2 会長挨拶</p> <p>3 報告</p> <p>(1) 幹事会より</p> <p>(2) 地域移行促進部会より</p> <p>(3) シンポジウム実行委員より</p> <p>4 議題</p> <p>(1) 相談支援部会の取組み報告及び活動について</p> <p>(2) 杉並区の権利擁護に関する取組状況について</p> <p>5 その他</p> <p>・区からの連絡事項</p> <p>6 閉会</p> <p>・次回の日程確認等</p> | |
| <p>はいふしりよう 【配布資料】</p> <p>○資料1 第2回杉並区地域自立支援協議会で出された意見と課題整理</p> <p>○資料2 地域移行促進部会の活動報告</p> <p>○資料3 第2回シンポジウム実行委員会報告</p> <p>○資料4 相談支援部会の活動報告 (当日配布)</p> <p>○資料5-1 障害者権利擁護に関するこれまでの経過と今後の予定</p> | |

- 資料5-2 杉並区における障害を理由とする差別の解消の推進に関する対応要領（素案）
- 別添 障害者権利擁護推進支援対応マニュアル（素案）（当日配布）
- 資料6 サービス等利用計画作成の進捗状況等について
- 資料7 杉並区の障害者虐待防止に関する取組状況について
- 資料8-1 平成26年度 杉並区の優先調達実績について
- 資料8-2 平成27年度杉並区障害者就労施設等からの物品調達方針
- 資料8-3 平成26年度障害者施設等の工賃額アップについて
- 資料9 重症心身障害児通所施設の開設及び選定について
- 資料10 第3期障害福祉計画に係る見込量と実績数値について
- 参考資料 アンケート報告書（障害者団体、区全課、区障害当事者職員）
- 参考資料 障害者の権利に関する条約
- 配布冊子 すぎなみ仕事ねっとカタログ（当日配布）

【内容】

1. 開会

省略

2. 会長挨拶

今年度から自立支援協議会を年4回開催している。今年度のまとめは、次回4回目に行う予定である。今回も議論部分では活発な意見を出していただき、課題を共有したい。差別解消法・権利擁護に関しての取組報告もある。どうぞよろしくお願ひ致します。

3.

(1) 幹事会より

※資料1を基に事務局から説明。

(2) 地域移行促進部会より

※資料2を基に地域移行促進部会副部会長から説明。

障害種別ごとに様々な意見が出ており、全てを取り組むことは難しい。どこの部分を優先的に取り組むのか、具体的に早急に取り組むべき課題があれば、意見をいただきたい。

⇒次回の地域移行促進部会で課題を類型化しまとめる予定。改めて意見を出してもらおう。

(3) シンポジウム実行委員より

※資料3を基に事務局から説明。

周知方法については、「広報すぎなみ」掲載とチラシ作成をした。チラシは関係機関に配布し、障害者施策課の窓口にも置く予定である。

PDFでチラシを送付するので、それぞれの関係機関に周知していただきたい。当日、委員の方も是非参加していただきたい。

4 議題

(1) 相談支援部会の取組み報告及び活動について

※資料4を基に相談支援部会長から説明。

☆Aグループ（事例検討）

親自身、本人の障害理解が難しく、課題が複雑である。また本人からのニーズを汲み取りにくく、サービスが継続しない。保健センターを中心に障害者地域相談支援センター（すまいる）とも連携を取り継続して関わることが必要ではないか、等の意見が出ている。次回、今年度のまとめをする。

☆Bグループ（重症心身障害児者のネットワーク構築）

平成27年10月に開所した重症心身障害児通所施設わかばの見学をした。医療的ケアのある児童のサービスは増えてきたが、課題も多いことがわかった。永福学園の大和田委員にも参加してもらい、医療的ケアのある生徒の実状を報告してもらった。来年度は、区内事業所等の社会資源の情報整理を行うと同時に、事例検討や実態調査等で課題の抽出を行っていく予定である。

☆Cグループ（高齢期の課題）

高齢期の課題やスムーズな移行に向けて、必要な情報や対応を議論した。65歳到達に向けて、情報提供や相談支援専門員とケアマネとの連携、顔の見えるネットワーク作りの重要性等を確認した。

☆Dグループ（就労の課題）

これまでの取り組みから、定着支援への課題が明確になり、定着支援について各施設の取り組み等、意見交換を行った。各事業所、考え方も異なり、かなりのばらつきがあった。各事業所が経営的な裏付けがなく、持ち出しでフォローしていくことは望ましくなく、継続性からみても不安定である。また、福祉分野だけでなく、広い視野で必要な支援を考えて行くことが必要ではないか、との意見もあり、オブザーバー等を含め構成メンバーについても検討をしていく。

☆Eグループ（児童の課題）

会場である障害者地域相談支援センター（すまいる高井戸）と同じ建物にあるワークサポート杉並の見学も行った。事例検討を実施した。中野特別支援学校や済美特別支援学校とは、連携が取れつつあるが、支援学級等との連携は課題がある。家族・学校・医療・福祉それぞれの機関で本人の特性を共有し、支援の方向性や役割分担を確認していくことが必要である。

○：Eグループの補足説明。ワークサポート杉並だけでなく、障害者福祉会館・高次脳機能障害相談窓口・通所生活リハビリ・ふれあい広場、障害者地域相談支援センター（すまいる高井戸）の見学等を実施した。資源の情報提供は有効であり、また事例報告会には、相談支援事業所・地域の事業所にも参加をしていただきたいと考えている。

相談支援部会長：2月26日に相談支援部会全体会を開催し、来年度に向けた意見交換をする予定である。機論が深まっているグループやまだ情報共有をしている段階のグループ、また、相談支援専門員もベテランから経験が浅い方等かなりのばらつきがある状態である。人数的にも大所帯とな

り、どのように運営をしていくか検討する必要がある。相談支援部会の運営方法や役割について、意見があれば出していただきたい。特定相談支援事業所との連絡会も行っており、各事業所に厳しい現状があり、安定した相談支援に不安を抱えている。経営面を含め、特定相談支援事業所の実態等調査していきたい。特定相談支援事業所に関して感じていることや調査についてこのような点に注目すれば良いのではないか、等意見をいただきたい。また、調査結果については自立支援協議会で報告したので、その点についてもご意見いただきたい。

○：特定相談支援事業所の実態把握の調査は、今年度の議論を踏まえ、次年度実施し、協議会で報告をしていきたいとのことですね。内容に関してもこの場で共有をしていきたいとのことですが、調査内容や何を意義としていくのか、それぞれの立場からご意見いただきたい。

○：相談支援部会としての独自調査を自立支援協議会で報告をする。部会としての調査だが、委員は重複している。区が委託していた7つの相談支援事業所を廃止した時にも、相談を受ければ受けるほど経営が苦しくなることは分かっていた。最近では、杉並区の支給が厳しくなり、相談支援事業所が計画を提出しても窓口で受け取ってもらえないことがある。サービスを区に合わせて調整する形になっている。

○：相談支援部会は協議会の組織ですが、区として問題はないでしょうか。

事務局：どのように調査をするのかは、協議会の中で意見を確認した上で実施していただきたい。自立支援協議会は区が設定しているが、区としては別組織になる。

○：親の立場からの意見ですが、相談支援事業所にかなり差がある。親も高齢になるとすぐにはサービス内容や手続きを理解することが出来ない。また困った時にどこに相談するかを理解していない親も多い。丁寧な説明・対応が求められる。実態調査により事業所の差がなくなり、公平なサービスが受けられるようになれば良いと思う。

○：自身が所属する法人も計画相談をしている。相談がそれほど必要でないケース、かなり複雑な調整を求められるケース等様々である。報酬単価が同じである点に課題がある。余裕がない中で調整が困難なケースをすぐには受けられない実態がある。課題が多い人ほど支援が必要なのに、たらい回しにされる可能性が出てくる。

○：介護保険が施行され15年が経った。みんなの目が肥えてきた部分もあり、サービス提供もスムーズになりつつある。ケアマネと同じような役割をもつ相談支援事業所には、現場の意見を反映させてほしい。自立支援という視点から、障害を持つ方を支援していきたいが、相談支援事業所の対応にかなりのばらつきがある。同じサービスを出すだけでなく、その方に応じたサービス提供が必要である。現場から出た意見を吸い上げたものを計画相談に反映させてほしい。自立支援という視点を大切に関係機関で考えながら、支援をしていきたい。

○：相談支援部会が中心となり、調査をすることは貴重だし大切だと感じている。何を明らかにしていくのが重要である。相談支援事業所の立場から聞くだけではなく、サービスを受ける利用者側の意見を聞かないと不十分である。特にサービス等の「等」部分が見えてこなくなる危険性があるので、当事者の視点を忘れずに対応して欲しい。

○：所属する法人でも相談支援事業所を持っている。相談支援員1名体制で行っているため、何かあった際のバックアップがない、その部分については対応策を考えていきたい。計画相談をする中で、サービスに繋がりが良くなった事例もある。

○：今の意見に賛成である。区ともよく打合せをしながら、進めていけると良い。所属する事業の計画相談は外部に依頼している。相談支援事業所に対して事業所がどのような関わりをしているのかを知りたい。

○：アンケート実施については、実態共有と今後の取組みの参考になるという点からも期待している。アンケートから、相談支援員1人、2人に対応している状況について、どのようなことが起きているのか、現状を知ることができれば良いと思う。また相談支援員が相談する場所としてどこがあるのか。地域ネットワーク推進係以外に、ここに相談したいというものがあれば、より参考になる。区からの委託で特定相談をしていた頃、プランをどのように作り、その方がどのように幸せになるか、どこと相談すれば良いのか、色々な悩み考え、時間が掛かり苦労した経験がある。アンケートから地域の中での実態を共有できればと思う。

○：調査については期待している。調査の進め方については、どこが調査を行うことが効果的か等も議論をし、計画的に進めていってはどうか。この場で多くの意見が出ているのは、計画の質や実態が分からない状況で、特定相談支援事業所への期待が要望として出ている表れではないか。そのような意味でも調査を行うのであれば、社会調査として結果を分析することも含めて、専門的な手法で行う必要がある。

○：学校関連の方からの意見も聞きたい。

○：学校との連携が拳がっていたが、モニタリングをする際に家庭状況に応じて、学校でモニタリングを実施できるよう協力している。ご家族から計画相談に関する相談をされることもある。学校側としては、生徒や家庭をこのような形で支援している等、情報を共有し協力していきたい。委員からの発言があったように、利用している立場からの視点は必要だと思う。

○：学校でも同じような課題がある。課題のある生徒には支援会議を行っている。なかなか解決できない事もあり、作業所を勧めても通所には結びつかず、卒業後に在宅になってしまう生徒もいる。保護者からは、特定相談支援事業所をどこにすれば良いか聞かれることもある。また相談支援事業所と契約をし、就労継続B型の受給者証の手続きを依頼しても、わからない保護者も多い。学校では、

保護者に対し進路説明会で区役所から説明をしてもらっている。学校として協力できる部分については協力をしていきたいと考えている。

○：当事者の方からもご意見をいただきたい。

○：希望を伝えても、なかなか叶えてもらえない。最後はとにかく人がいないという事で。確かに人がいないのは感じているが、サービス提供者側に合わせている現状がある。本当は11時に来て欲しいのに、もう少し早く伺っていいですか？と言われることもある。そのような中、自分らしい生活を送れているかと問われると、最近、疑問に感じている。

○：「サービス等利用計画」、その言葉が3・4年も掛けて分かるようになってきた。率直に感じたのは、健常者は自分の事を自分で考えられるが、障害者は自分で考えられない、もしくはその力が弱い、足りない方が多い。実際の生活や人生に関わる、障害者の生活を支えるための制度が、人手が足りない、お金が足りない、そのような理由で本人の思うように勧められないのは、おかしい。その部分も行政やこの自立支援協議会で考えて行くことも大切である。障害者の権利擁護という言葉があり、また障害者の権利条約に批准しているのに、矛盾している。人手やお金の問題であれば、何とかならないのか、障害者の人生に関わる事なので、その事を解消し解決していくような調査にならないと意味がない。

○：各立場の人に計画相談について調査をし、杉並区の相談支援に対し何が求められ期待されているのかを考えていきたい。今後どのように調査を勧めて行くかを含め、検討していきたい。今日は色々な意見をありがとうございました。

○：幹事会でも今日の意見を含めて考えていきたい。調査方法も誰が聞くのか、また立場によっては話にくい部分も出てくるので、調査の設計については幹事会でも検討していきたい。

(2) 杉並区の権利擁護に関する取組み状況について

※資料5-1・資料5-2・別添 障害者権利擁護推進支援対応マニュアル(素案)・参考資料アンケート報告書を基に障害者施策課長(出保)から説明。

職員の対応については差をなくし、合理的配慮を徹底していきたい。今後は、対応要領(素案)を区の作業部会で案を修正していく。現在素案の意見をいただいております。意見があれば、頂戴したい。対応要領は作って終わりではなく、毎年、合理的配慮の具体例を積み重ねる中で、より良いものを作り上げていく。別添では具体例を載せている。別添内容についても、毎年見直す予定である。

○：差別禁止条例に関して、杉並区の動きはどうなっているか。

事務局：条例は理念であり、まずは具体的な指針・対応を考えていきたい。条例化の動きは現在区にはない。他自治体の状況も参考にしていきたい。

○：対応要領・マニュアルともに完成ではなく、見直しをしながらすすめて行くそうです。
具体例の部分では、事業所等で実施している事があれば教えていただきたい。金子委員は、普段お仕事を
する上で、障害を持っている方に配慮していることはありますか。

金子委員：区役所1階の喫茶店で働いている。車椅子の方が来た時には、椅子を片付けて、目が不自由
な方には食券を代わりに買って、席まで案内をしています。

○：このような具体的な対応が、マニュアルを充実させていくと思います。具体的な事例を挙げるの
は有効なので、他の方はいかがですか。

○：すまいるを利用されている方で視覚障害の方がいる。点字ブロックが途中で途切れており、使い
にくいとの意見をもらった事がある。また、土日は記帳をして入館することになっているが、視覚
障害のためどこに書いて良いか分からない。守衛さんは代筆出来ない事になっており、すまいるの
職員が対応をしたことがある。

事務局：代筆に関しては、検討課題である。どこまで代筆ができるのか、出来ないのか、法で決まっ
ている部分もある。点字ブロックを整えたら、車椅子の方から動きにくいとの訴えもあり、どこをど
こまで整備していくのかは考えていきたい。

○：自分は現在車椅子使用している。点字ブロックは確かに心地良くないが、それを頼りにしている
人もいるため、お互いに理解を深めていくことが必要である。その部分についても、区としてきちん
とアプローチをしていくことが必要である。

○：日々の対応等で気付いたことがあれば、どこに相談し伝えれば良いのか。

事務局：障害者施策課で対応する。何か困った事等があれば、障害者施策課に相談して欲しい。

5 その他 区からの連絡事項

※資料6、資料7、資料10を基に障害者施策課管理係長（井出）より説明。

※資料8-1、資料8-2、資料8-3、カタログ（当日配布）基に障害者生活支援課長（笠）より説明。

6 閉会

○：今回の自立支援協議会は、秘密会でなくて良いのでは。公開の原則を守って欲しい。

事務局：わかりました。事例を扱うため個人情報に配慮して秘密会にしたが、次回以降、調整・確認
し対応します。

高山会長：忙しい中、委員の方のご協力に感謝します。各部会の活動、シンポジウムにも引き続き
ご協力願いたいと思います。

※^{じかい}次回、^{だい4かい}第4回^{じりつしえんきょうぎかい}自立支援協議会は、^{3がつ}3月^{22ひ}22日（^き木）^{13じはん}13時半～^{16じ}16時^{かいさいよてい}開催予定。

い じょう
以 上